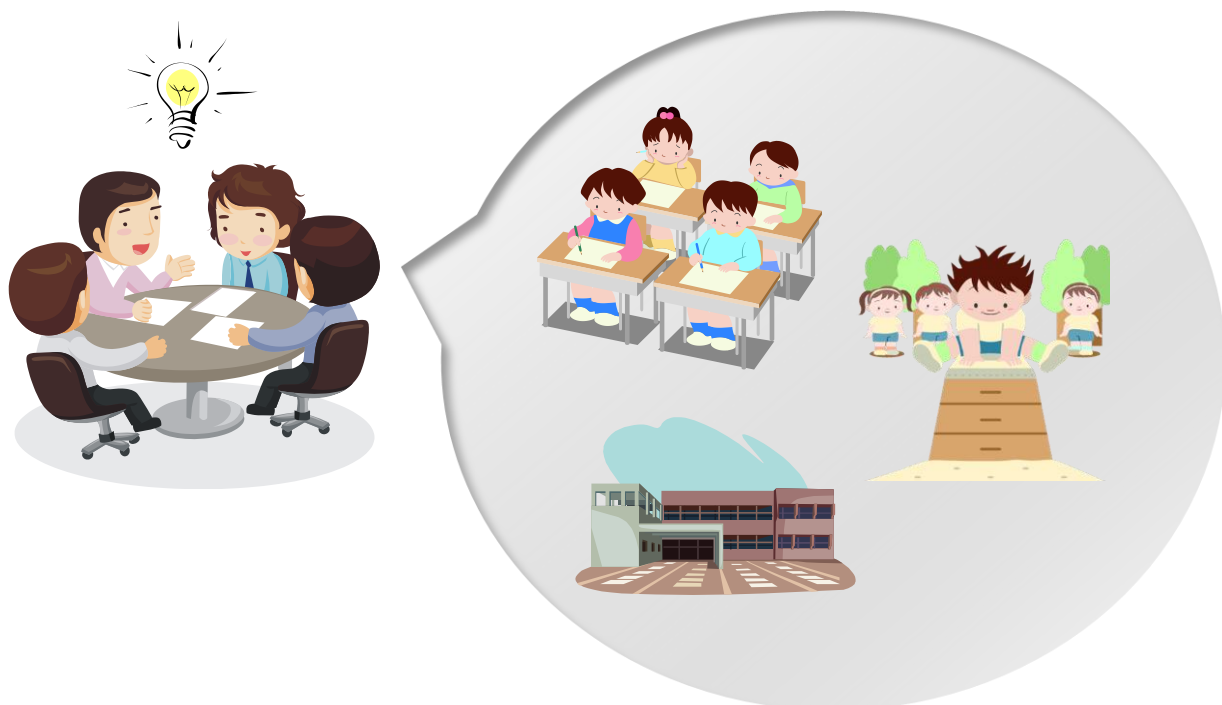


「弘前市立小・中学校の教育改革に関する基本方針」
の策定に係る

地域意見交換会 ～資料～



【次第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 弘前市の教育について
- 4 意見交換
- 5 閉 会

《弘前市教育委員会》

目 次

弘前市立小・中学校規模適正化基本方針の見直しにあたって	…	1
弘前市の現状		
(1) 弘前市の人口の推移	…	2
(2) 児童生徒数の推移	…	3
(3) 弘前市立小・中学校数の推移	…	3
(4) 児童生徒の分布の変化	…	4
(5) 青森県学習状況調査と弘前市の状況	…	5
弘前市の教育について	…	6
教育に関する予算（教育費）	…	7
主な取組		
夢実現ひろさき教育創生事業	…	8～9
弘前教育活性化プロジェクト	…	10
その他の取組	…	11
社会教育事業	…	12～13
文化財の保存・活用	…	14
用語解説	…	15
地域意見交換会の開催スケジュール	…	16

弘前市立小・中学校規模適正化基本方針の見直しにあたって

現行の「弘前市立小・中学校規模適正化基本方針」を見直し、新たな方針を平成26年8月頃までに定めます。

新たな方針の名称は、「弘前市立小・中学校の教育改革に関する基本方針」の予定です。

現行の方針では、地域の理解と協力を得ながら、複式学級編成校は統廃合により複式学級の速やかな解消を図るとともに、その他の小規模校についても、逐次検討を進めることとしています。

今回の見直しにあたっては、学級数のみを基準にするのではなく、地域の実情、通学環境、地域と学校の連携、小中一貫教育などの新たな教育システムの導入の可能性など、様々な側面からも教育環境の在り方について検討するとともに、地域住民や保護者の方などから広く意見を聞いて、新たな方針を平成26年8月頃までに策定します。

そして、この新たに策定した方針に基づき、中学校区ごとに学校の在り方や教育環境などに関する具体的計画を策定していく予定です。

(現行の方針)

弘前市立小・中学校規模適正化基本方針

平成21年5月18日

児童生徒にとってより良い教育環境とするため、地域の理解と協力を得ながら、次により学校規模の適正化に努めます。

- 1 12学級に満たない小規模な学校（以下「小規模校」という。）のうち、複式学級編成校は統廃合により複式学級の速やかな解消を図るとともに、その他の小規模校についても、逐次検討を進めます。
- 2 地域事情や地理的条件などを考慮して進めます。
- 3 児童生徒が安全で安心して学習できるよう、校舎など施設環境の整備を考慮して進めます。
- 4 児童生徒が安全で安心して通学できるよう、通学路の安全確保や通学の支援策を考慮して進めます。

弘前市の現状

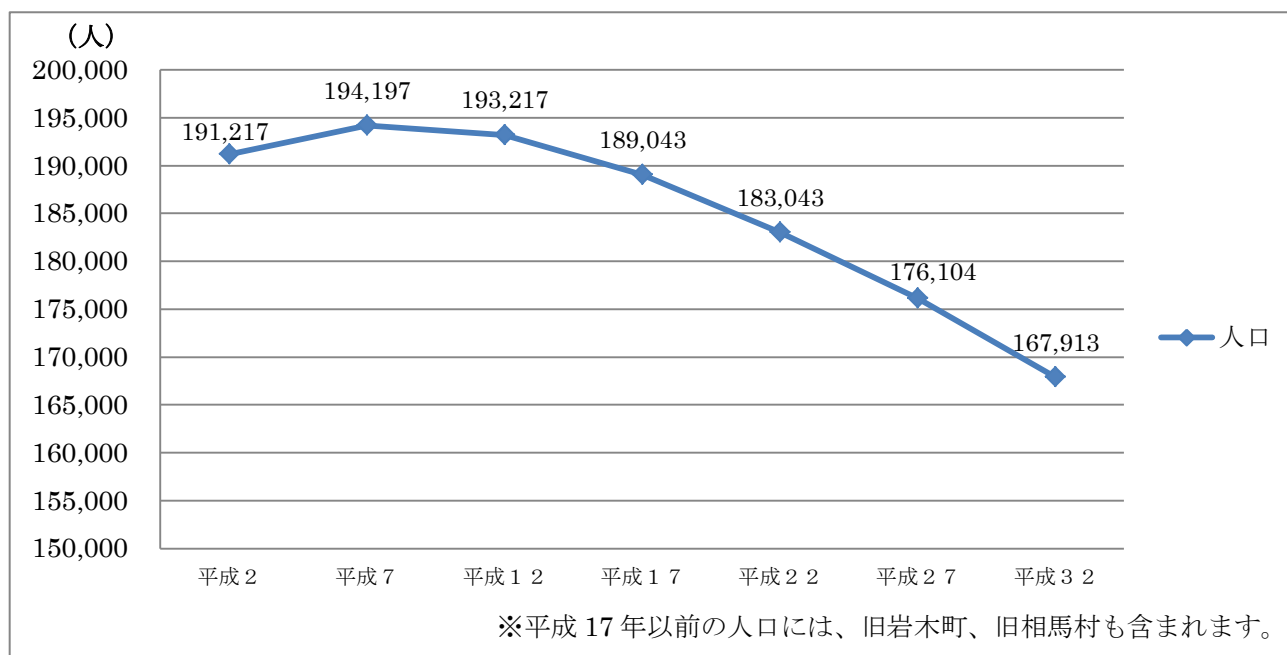
- ・本市の人口は減少傾向にあり、少子化の傾向も強まっています。
- ・児童生徒数は、平成１７年には既にピーク時の半分以上となっており、今後も減少することが見込まれます。

(１) 弘前市の人口の推移

① 総人口の推移

本市の人口は、平成７年ごろピークを迎え、その後は減少傾向にあります。

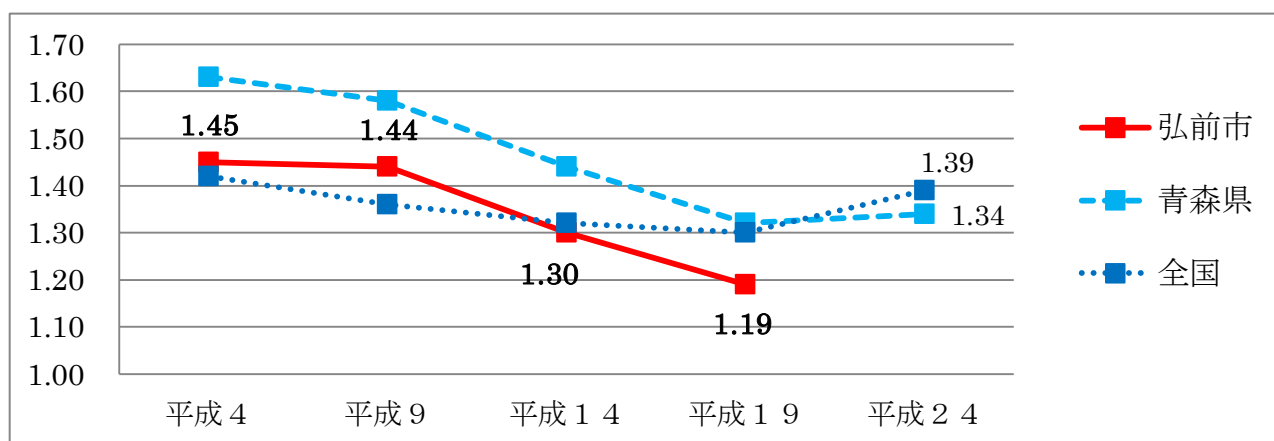
特に、平成１２年の国勢調査以降は人口の減少が加速し、平成３２年には１６７,９１３人となることを見込まれます。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成２５年３月推計）

② 合計特殊出生率※の推移

※１５～４９歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。一人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当。

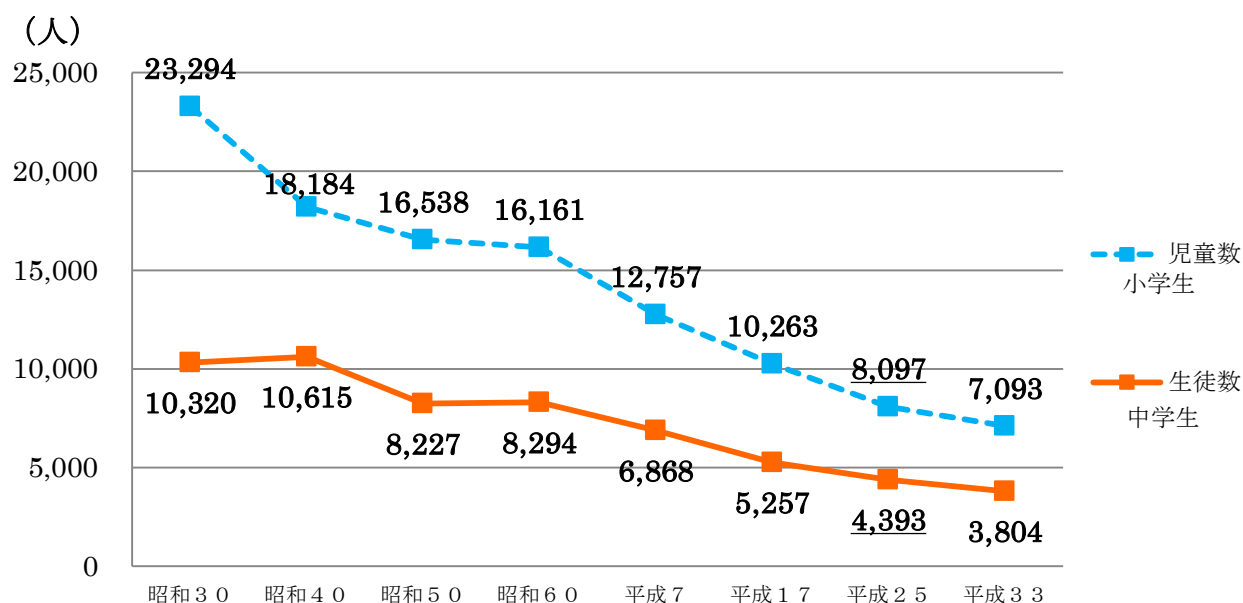


出典：平成２４年青森県人口動態統計（概数）の概況

(2) 児童生徒数の推移

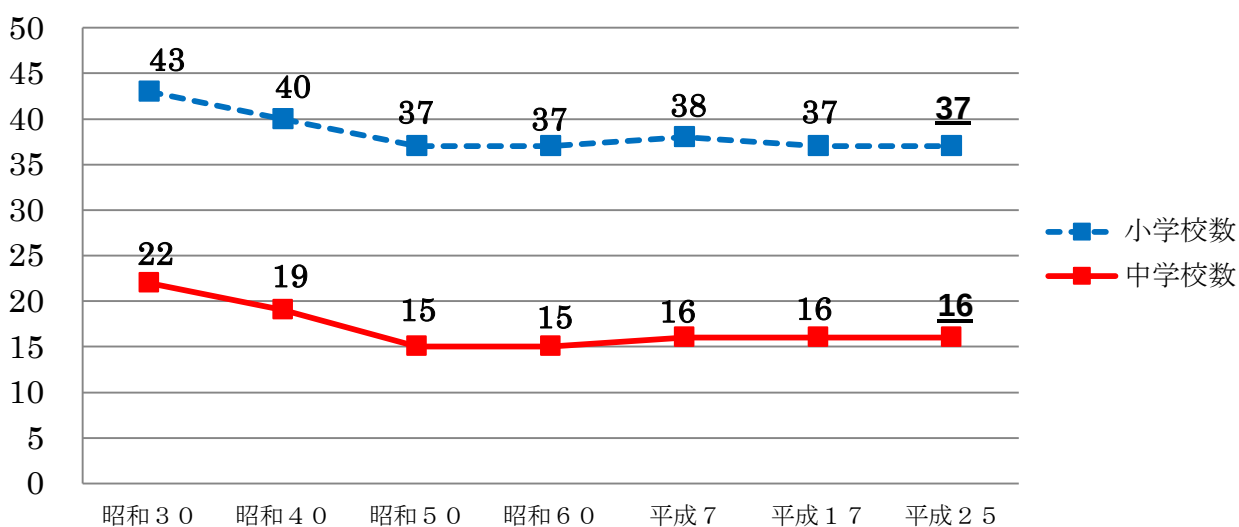
市立小・中学校に通う児童生徒数は、昭和30年以降減少し、平成25年には児童生徒数の合計が12,490人と、昭和30年の33,614人と比較すると半分以上、62.9%の減少となっています。

今後もその傾向は続くことが推測され、平成33年には児童生徒数の合計が10,897人となることを見込まれます。



(3) 弘前市立小・中学校数の推移

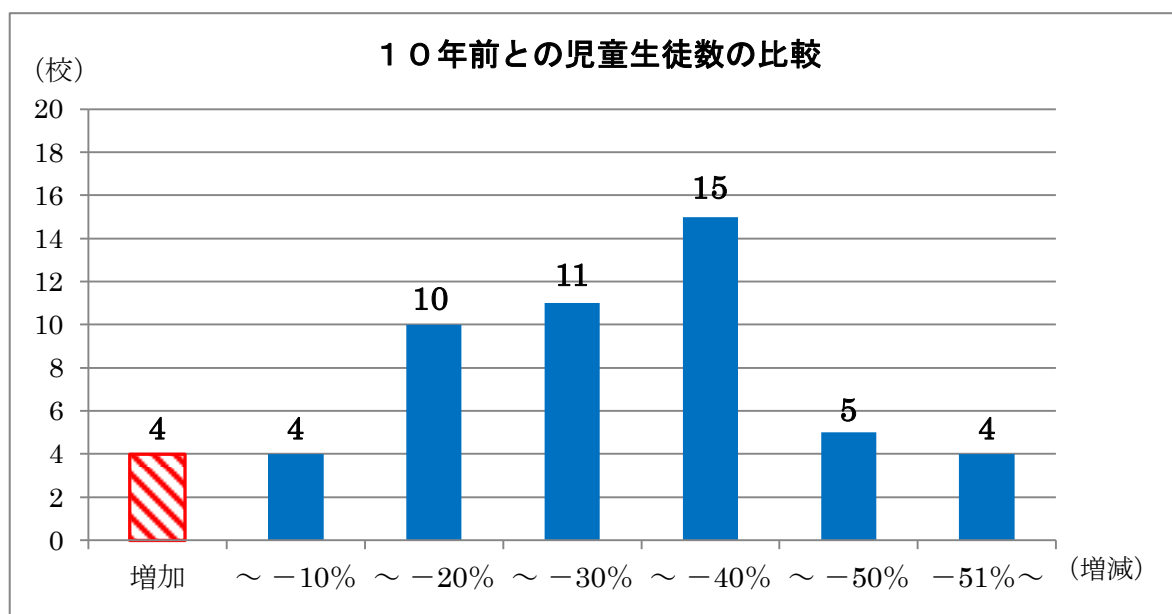
(校)



(4) 児童生徒の分布の変化

児童生徒数の減少は市内で均一に起こっているのではなく、都市化の広がりによる人口分布の変化により地域によっては差があります。

この10年で大幅に児童生徒数が減少した学校が多数ある一方で、宅地の分譲が進む地域では、増加しています。



縦軸は学校数。横軸は10年前と比べて児童生徒数が減少した割合。

10年前に比べて、児童生徒の数が減っている学校が多いけど、増えている学校は4校あるんだあ。



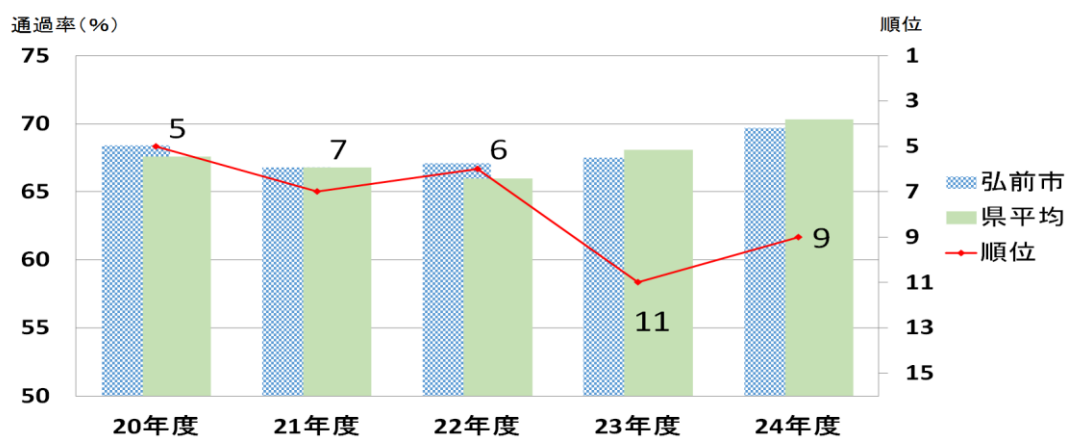
（５）青森県学習状況調査と弘前市の状況

県内公立小・中学校の児童生徒を対象に、全県的な規模で学習状況の調査を毎年、県教育委員会が行っています。調査結果は、学習指導要領における各教科の目標や内容の定着状況を把握し、学習指導上の課題を明らかにするとともに、各学校が指導の改善に活用しています。

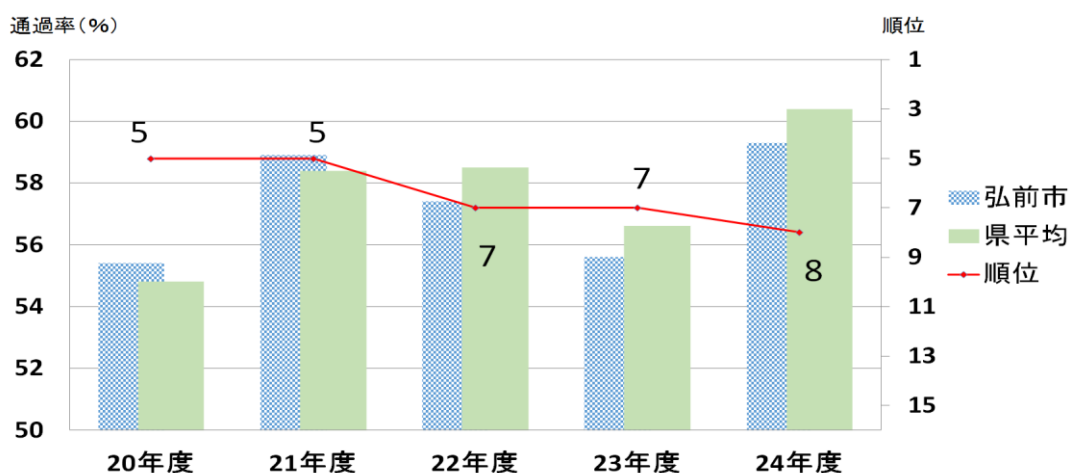
調査対象学年及び教科

- ・小学校5学年「国語」、「社会」、「算数」、「理科」
- ・中学校2学年「国語」、「社会」、「数学」、「理科」、「英語」

小学校5学年 教科全体 ※順位は県内全16郡市中



中学校2学年 教科全体 ※順位は県内全16郡市中



弘前市の教育について～教育委員会の取組～

～夢実現弘前教育プラン（弘前市教育振興基本計画）～

策定：平成22年12月

弘前市が目指す教育 3つの「つ」

①「自分が新しい自分を**つ**くる（創る）」教育を目指します。

一人一人の子どもや大人が、学習活動やスポーツ活動、文化活動などあらゆる生命活動において、自分らしさを生かした取り組み方で、今の自分を、より深め、高め、広げ、あるいは強めて、「新しい自分」を創ります。

この「個をつくる（創る）」教育を進めるための環境づくりと適切な支援に努め、これからの時代を生き抜く力を備えた人を育てていきます。

②「これまでと今、そしてこれからを**つ**なぐ（繋ぐ）」教育を目指します。

今日までの社会を創り、支えてきた人々、そして今の社会を支え、牽引している人々が培ってきた伝統・文化、社会に貢献する生き方、磨いてきた知恵や技術などを次の世代に伝えます。

この「時代をつなぐ（繋ぐ）」教育を通して、新しい時代を切り拓いていく人を育てていきます。

③「心と心をつ**む**ぐ（紡ぐ）」教育を目指します。

学校と家庭、学校と地域、学校教育と社会教育など、関係する人や機関それぞれが関わり合い、学び合い、支え合いながら心と心を紡ぎ、連携、協働して社会全体で教育に取り組みます。

この「心と心をつむぐ（紡ぐ）」教育を通して、生命を尊重する心、公共の精神、望ましい人間関係を築く力などを培うとともに、これからの社会のあり方を考え、新しい社会づくりに取り組む人を育てていきます。

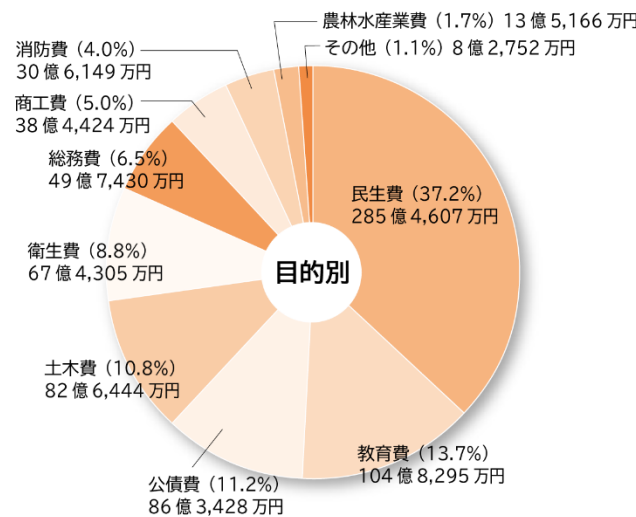


学校、家庭、地域等が相互に連携協力

教育に関する予算（教育費）

一般会計 **歳出 767億3,000万円**

※図表の金額は1万円未満を四捨五入しているため、合計額が合わない項目があります。



教育費の割合

平成25年度当初予算額
767億3,000万円
うち教育費
104億8,295万円
(13.7%)

教育費項目別予算

(単位:千円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度		対前年比	
					増減額	増減率
一 般 会 計	74,530,000		76,730,000		2,200,000	3.0
教 育 費 (一般会計に占める割合)	8,733,015 (11.7)	構成比 100.0	10,482,950 (13.7)	構成比 100.0	1,749,935	20.0
1. 教育総務費	846,012	9.7	1,050,058	10.0	204,046	24.1
2. 小学校費	1,873,703	21.4	2,709,906	25.9	836,203	44.6
3. 中学校費	575,124	6.6	535,758	5.1	△39,366	△6.8
4. 幼稚園費	42,101	0.5	39,201	0.4	△2,900	△6.9
5. 社会教育費	3,065,753	35.1	3,933,744	37.5	867,991	28.3
6. 保健体育費	2,330,322	26.7	2,214,283	21.1	△116,039	△5.0

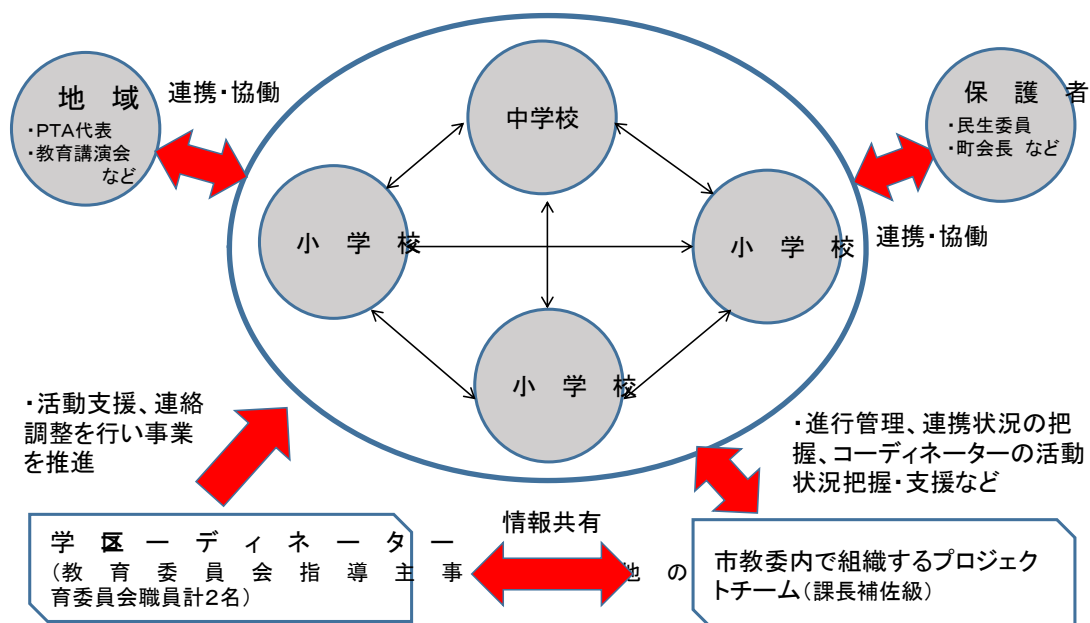
主な取組

夢実現ひろさき教育創生事業

「夢実現ひろさき教育創生事業」は、夢実現ひろさき教育プラン（弘前市教育振興基本計画）を具現化するため、市内16の中学校区を単位に、すべての小・中学校が家庭や地域と一体となって交流・連携教育に取り組むことで「地域とともにある学校の実現」、「義務教育9年間を貫く「育ちと学び」の環境づくり」を目指すもので、平成24年度より実施しています。

（平成25年度学区連携組織イメージ） 中 学 校（市 内 1 6 校）

・小中連携プランを作成し、
動」「その他の取組」を実施



平成25年度の共通活動

- ・「中学校区における保護者、地域への授業公開の実施」
- ・「子どもの笑顔を広げる弘前市民条例～いじめや虐待のないまちづくりを目指して～」の啓発活動



弘前市では、平成25年4月に「子どもの笑顔を広げる弘前市民条例～いじめや虐待のないまちづくりを目指して～」を施行し、併せて行動計画を策定しました。

市立小・中学校が連携しての「あいさつ運動」、パンフレットの毎戸配布、標語やロゴマークの募集、ポスターの掲示など様々な取組を推進しながら、子どもたちの笑顔あふれるまちづくりを目指しています。



総合学習センターにある教育センター内に相談支援チームを設置し、相談窓口を一本化して、子どもや保護者などからの相談に応じています。

《弘前市教育センター相談支援チーム》
26-4802

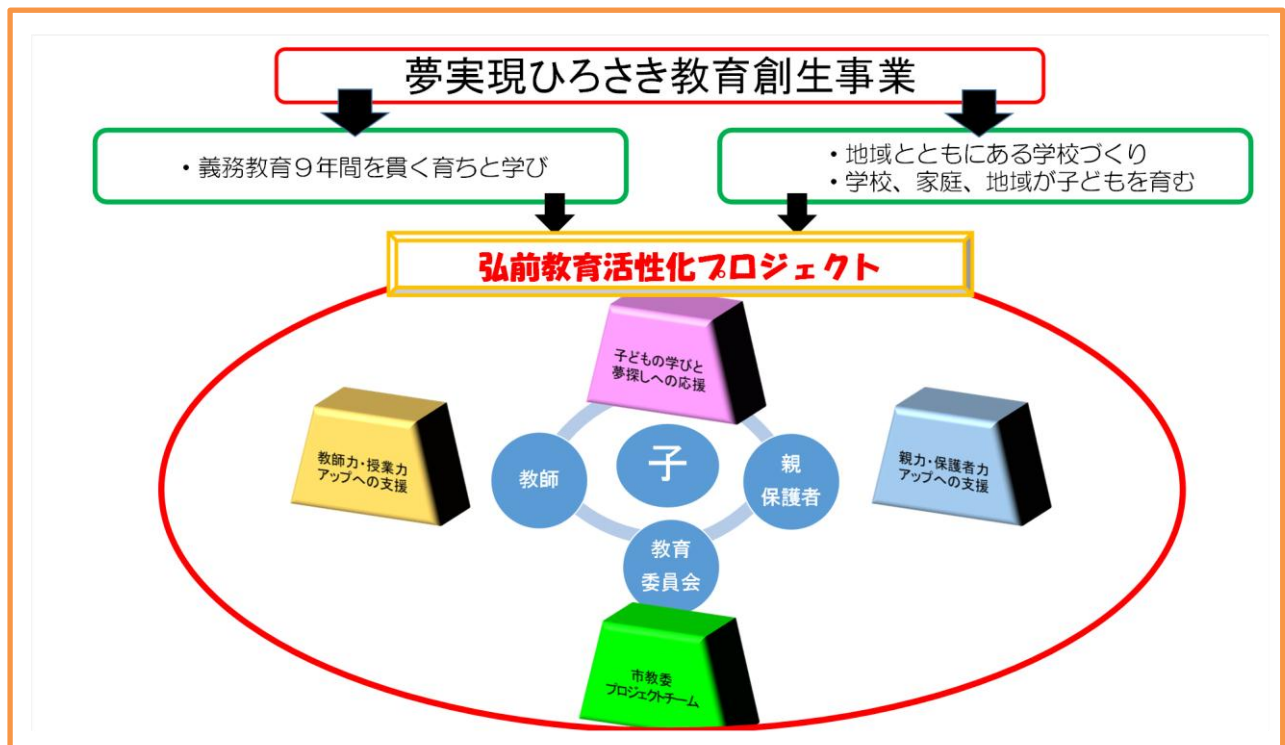
《こども悩み相談電話》
(土日祝日等 26-2110)



弘前教育活性化プロジェクト

プロジェクトの位置づけ

- 子どもの学びの総合プランとして位置づけます。
- 「弘前教育活性化プロジェクト」を基に各種事業を相互に関連づけて計画し、取り組みます。
- この構想への取組は、平成25年度から概ね3年間とします。



＜主な取組＞

子どもの学びと夢探しへの応援

- 「B i ・ B i っとスペース」（学びの共有空間）の開設 （市内5か所）
- 外科手術体験セミナー
- 台湾の中学校との国際交流

教師力・授業力アップへの支援

- デジタル教科書（中学校英語）の導入
- 全教員に対する授業づくりのための悉皆研修
- 教育実践研究のための補助制度

親力・保護者力アップへの支援

- 保護者を対象にしたキャリア講話
- 教員に対する進学支援制度説明会の開催

市教委プロジェクトチーム

- 喫緊の課題に関する調査研究を行うためのワーキンググループ設置



外科手術体験セミナーの様子

その他の取組（一例）

○小学校少人数学級の拡充

小学校3学年まで適用している県の33人学級と並行して、4学年以降についても市独自で33人学級を拡充しています。平成24年度は4学年、今年度は5学年で実施しています。6学年の実施に向けて検討しています。

○英語教育の推進

中学校では、英語は教科として授業を行っていますが、小学校では、小学校5年生と6年生が外国語活動として中学校に入学する前に英語を使ったコミュニケーションの授業を行っています。

英語によるコミュニケーション能力の育成を目的に、児童生徒が生の英語を聞いたり話したりできる環境を進めるため、平成24年度は、外国語指導助手（ALT）を、5人、英語活動支援4人を雇用して、市立小・中学校に派遣しています。

平成25年度は、ALTを2人増員し11人体制とし、より多くの児童生徒が英語に触れる環境を進めています。

○健康教育と学校給食の充実

健康教育に関する講座の開設やアンケートを実施しながら、その効果を検証し、長期的な計画に結びつけていきます。また、学校給食の充実に向けて、野菜の摂取率向上と平成25年度からは食物アレルギー対応食提供事業を開始しています。

○学校施設の整備及び管理

学校施設は、子どもたちが安心して学び、生活する場であるとともに、災害時には避難場所として役割を果たしていることから、平成22年度から順次、小・中学校の耐震化に取り組んでいます。

また、校舎の老朽化に伴う改築や学校施設の維持管理のため、学校の要望を聞きながら緊急性が高いところから改修等を行っています。



教育についてみんなで考えよう！

ひろさき教育創生市民会議

【概要】

委員 32人
・学識経験者
・団体推薦者
・公募による者
・その他教育長が必要と認める者
任期 2年間
報酬 なし
会議 原則公開

討議事項例

- ・弘前市が目ざすべき教育の姿や施策の方向性
- ・子どもの育ちと学びを推進する教育システム
- ・学校、家庭、地域等それぞれの教育力向上と相互の連携や協働
- ・いじめや虐待を防止し、早期に解決するための手立てなど

めざす姿

学校、家庭、地域、教育行政が共通認識のもと、一体となって総合的かつ計画的な教育を推進できます。

社会教育事業

○児童劇観劇教室

市内の小学生に本格的な児童劇を鑑賞する機会を提供する趣旨で、昭和 43 年から中央の劇団を招いて実施しています。以来、豊かな心を育み、道徳的、芸術的価値観を高めるなど、情操を養う機会となっています。

～実施状況～

年度	演目	劇団名	実施回数	参加児童数
平成 20 年度	グリムのハンスと大悪魔	劇団芸優座	7ステージ	5,226 人
平成 21 年度	じゅげむ寿限無	劇団ミュージカルプラザ	8ステージ	6,242 人
平成 22 年度	眠れる森の美女	劇団東少	6ステージ	6,452 人
平成 23 年度	一休さん	劇団芸優座	6ステージ	5,955 人
平成 24 年度	角〜いじめっこ姫の物語	劇団芸優座	6ステージ	6,097 人

○サタディプラン

学校週5日制に伴い、休業日となる土曜日に児童・生徒が自主的に選択し参加できる事業を、各社会教育施設の特性を生かしたメニューを組み「サタディプラン」として実施しています。

～過去3年間のサタディプラン実施状況～

No.	プログラム名	担当課	回数			延べ参加者数(人)			内 容
			22 年度	23 年度	24 年度	22 年度	23 年度	24 年度	
1	わくわく☆こどもプラネ	中央公民館	47	41	47	624	789	1,185	四季の星空の解説とその季節の物語の紹介(平成23年5月から「わくわく☆こどもプラネ」に名称変更)
2	子どもクラブ	中央公民館	97	85	77	1,011	929	747	自然観察、科学、やきもの、ふるさと、ラジオ劇団、天文、小鼓の7クラブ
3	親子文学館散歩	郷土文学館	1	2	4	2	5	11	常設展と企画展の鑑賞
4	親子鑑賞会	博物館	32	34	29	60	562	876	開催展覧会の鑑賞
5	読み聞かせと図書館の探検隊	図書館	5	4	3	39	18	15	図書館の探検と仕事の体験
合 計			182	166	160	1,736	2,303	2,834	

○ウィークエンド子どもクラブ

ウィークエンド子どもクラブは、平成14年度から学校週5日制が完全実施され、子どもたちが自由に使える時間的ゆとりが生まれたことから、地域における児童・生徒の学校外活動の選択肢として、地域のボランティアとして協力する社会人等の指導と協力のもとに、スポーツ・文化、その他の体験活動を年間を通じて実施しています。

～過去3年間のウィークエンド子どもクラブ実施状況～

クラブ名		回数			延べ参加者数(人)			テーマ
		22 年度	23 年度	24 年度	22 年度	23 年度	24 年度	
1	子どもせん茶道クラブ	30	28	29	188	172	165	せん茶道のおけいこ
2	やきもの子どもクラブ	12	12	12	276	218	288	やきものを作ろう
3	女子ソフトテニスクラブ	24	28	35	346	316	429	ソフトテニスの基礎
4	子どもウォーキングクラブ	11	11	11	254	272	248	ウォーキングの基礎
5	ウィークエンド子ども囲碁クラブ	25	23	24	261	230	181	囲碁の手ほどき・実戦
6	日本舞踊を楽しむ会	15	14	13	142	161	143	童謡、長唄、浴衣の着方
7	子どもサッカークラブ	12	11	12	180	139	132	サッカーの基礎・基本技能
8	いけばな子ども教室	12	12	12	229	290	298	いけばなの基礎
9	子どもお琴クラブ	12	12	11	101	96	75	琴演奏の基礎
10	ノーザンウィング	55	57	48	225	344	288	歌と手話で楽しく歌おう
合 計		208	208	207	2,202	2,238	2,247	

「JAXAへ行こう！」

多くの人との関わりや体験を通して生きる力を身に付け、将来の自分を思い描く中学生の時期に、JAXAの施設を訪ね、当市出身の川口淳一郎教授による研修を受講し、高度な科学技術に実際に触れることで、「宇宙へと視野を広げるきっかけづくり」「将来の進路・目標を考えるきっかけづくり」「当市の次代を担う人材育成」を目指し実施しています。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）

（1）相模原キャンパス 神奈川県相模原市

※宇宙に関する研究を行っている施設

（2）筑波宇宙センター 茨城県つくば市

※人工衛星やロケットなど将来の宇宙機の研究開発や開発試験、打ち上げた人工衛星を追跡管制する国のネットワーク拠点施設

参加者：弘前市に在住する中学生 20 名（H24 の応募者数 127 名）

【弘前市の特徴】

- ① 縄文時代を中心に中・近世の城館跡など数多くの埋蔵文化財を有しています。また弥生・奈良・平安・鎌倉時代以降の発掘調査例も増加し、次第に解明されてきています。
- ② 津軽氏城跡（堀越城跡・弘前城跡）をはじめ、弘前藩に關係する文化遺産が数多く遺されています。
- ③ 明治・大正期の近代建築も、県内他市町村に比して数多く遺されています。
- ④ 歴史的有形文化遺産と併せ、津軽塗・こぎん刺し・アケビ細工等の伝統工芸や、オシラ様等の民間信仰、獅子踊・神楽等の民俗芸能、更にねぷたまつり、お山参詣等の民俗行事も絶えることなく続けられ精神文化を培っています。

（参考） 弘前市所在の指定文化財等（平成 25 年 4 月 1 日現在） 252 件

○国・県・市指定文化財 231 件

○国登録文化財 17 件

○記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財 3 件

○重要美術品〔旧法〕 1 件（考古資料 1 件）

～史跡弘前城本丸石垣解体修理～

石垣の孕み（はらみ）により天守が傾いていることから、約 100 年ぶりに弘前城天守を曳屋（ひきや）して、本丸石垣を解体し積み直しします。

平成 19 年度から地質調査や観測を進め、平成 28 年度から 10 年計画の予定で、天守を曳屋（ひきや）し、天守台とその周辺の石垣を取り外して、積み直し、再度、天守を引き戻します。

100 年に一度といわれる石垣修理及び天守の曳屋（ひきや）を一般公開することとしています。

さらに、学校のカリキュラムに組み込むなど、体験や学習を通じて、郷土の歴史や文化への理解と地域を愛する心を育てたいと考えています。



～用語解説～

【複式学級】

日本の公立義務教育諸学校の学級は、同学年の児童または生徒で編制することを原則としています。児童生徒数の減少により、同学年で人数が確保できない場合には、国の基準により複式学級を編成しています。

この複式学級とは、異なる学年の児童・生徒を1つの学級に編制するもので、弘前市の場合、この複式学級がある小学校は、37校中7校、中学校は16校中1校となっています。

【小中一貫教育・小中連携教育】

小中一貫教育とは、義務教育9年間を見据えて児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある学習指導・生活指導を行う教育のことです。弘前市立の小中学校においては、小中一貫校はありません。

小中連携教育は、小学校と中学校の区分は維持しつつ、小学校から中学校への円滑な教育を図るために相互が連携する教育です。学校行事での児童・生徒の交流、中学校から小学校への出前講座など様々な取組があります。弘前市においては、夢実現ひろさき教育創生事業により各中学校区での取組を推進しています。

【コミュニティ・スクール】

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

コミュニティ・スクールには保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針の承認や教育活動などについて意見を述べるなど、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させることを目的としています。弘前市では、各学校において地域と連携した取組が既に行われていることや、学校評議員制度※を導入していることから、コミュニティ・スクールを取り入れている学校はありません。

※学校評議員制度とは、公立学校の運営に保護者や地域住民の意向を幅広く取り入れるための制度です。

【国における学校配置の目安】

国における学級配置の目安は、次のとおりです。

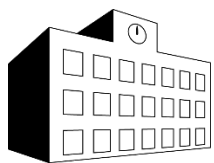
○学校教育法施行規則 第41条（学級数）

小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。（第79条で中学校に準用）

○義務教育諸学校の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 第4条（適正な学校規模の条件）

（1）学級数がおおむね12学級から18学級までであること。

（2）通学距離が、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校にあってはおおむね6キロメートル以内であること。



地域意見交換会の開催スケジュール



No.	開催日	開始時間	会場	対象 (小学校区)
第1回	H25年11月26日(火)	18:30～	石川中学校 会議室	石川中学校区 (石川小)
第2回	H25年12月3日(火)	18:30～	第五中学校 ミーティングルーム(体育館2階)	第五中学校区 (豊田小／堀越小／ 千年小の一部)
第3回	H25年12月5日(木)	18:30～	常盤野中学校 ランチルーム	常盤野中学校区 (常盤野小)
第4回	H25年12月10日(火)	18:30～	新和中学校 視聴覚室	新和中学校区 (小友小／三和小／新和小)
第5回	H25年12月12日(木)	18:30～	東目屋中学校 図書室	東目屋中学校区 (東目屋小)
第6回	H25年12月17日(火)	18:30～	相馬中学校 地域連携多目的活動ホール	相馬中学校区 (相馬小)
第7回	H25年12月19日(木)	18:30～	裾野中学校 視聴覚室	裾野中学校区 (修斉小／草薙小)
第8回	H26年1月9日(木)	18:30～	北辰中学校 1年1組教室	北辰中学校区 (自得小／高杉小)
第9回	H26年1月14日(火)	18:30～	第一中学校 体育館	第一中学校区 (城東小／和徳小の一部／ 時敏小／北小)
第10回	H26年1月16日(木)	18:30～	東中学校 会議室	東中学校区 (福村小／和徳小の一部／ 東小)
第11回	H26年1月21日(火)	18:30～	船沢中学校 柔剣道場	船沢中学校区 (船沢小／弥生小)
第12回	H26年1月23日(木)	18:30～	津軽中学校 会議室	津軽中学校区 (岩木小／百沢小)
第13回	H26年1月28日(火)	18:30～	第二中学校 体育館	第二中学校区 (三省小／致遠小／ 城西小／西小)
第14回	H26年1月30日(木)	18:30～	第三中学校 体育館	第三中学校区 (文京小の一部／大成小／ 第三大成小)
第15回	H26年2月4日(火)	18:30～	第四中学校 体育館	第四中学校区 (小沢小／青柳小／ 朝陽小／桔梗野小)
第16回	H26年2月6日(木)	18:30～	南中学校 体育館	南中学校区 (文京小の一部／松原小／ 千年小の一部／大和沢小)

問い合わせ先：弘前市教育委員会学校企画課 (岩木庁舎3階)

住 所 〒036-1393 弘前市大字賀田一丁目1番地1

T E L 0172-82-1640 FAX 0172-82-5899

E-mail gakkoukikaku@city.hirosaki.lg.jp